



中町エリアの景観の特徴

A 地形とまちの構造

A-1 見通しのよい高い場所



本陣跡から米屋のあたりは高台になっていて、東と西へ道筋やまちなみを見下ろすことができます。

より良い景観形成へ

建物は見られることを意識して、壁面や屋根などの素材や形状に配慮しましょう。

A-2 氏神様との眺望線



薬師山の裾にある本陣跡（裏側）と明神山の裾にある関山神社の間は山綱川が削ってつくった谷を挟んだ地形で、眺望が開けています。

より良い景観形成へ

まちの主要な施設をつなぐ眺望線を妨げないよう、建物などの高さなどに配慮しましょう。

A-3 田畑が広がる鉄道沿いの道



狭い道幅と古い石積みが歴史を伝える裏通りは住宅と田畑の間を通っており、旧東海道沿いとは異なった開放感があります。

より良い景観形成へ

まわりの山並みの稜線や見え方などを妨げないよう建物などの配置や規模などに配慮しましょう。

宿場町の主要施設が集まる重要な場所です。表と裏をつなぐ路地の形状や、本陣からの眺望も重要なポイントです。

B 宿場町の風情

B-1 町家が伝える宿場の歴史

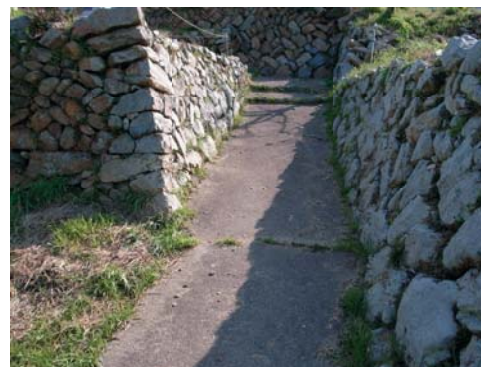


屋根の形状（切妻、平入り）や格子、卯建などが特徴の町家が宿場の歴史を伝えています。

より良い景観形成へ

地域の歴史を伝える資産として、できる限り次世代に継承したいものです。建て替えの際も外観のデザインをできる限り継承しましょう。

B-2 石積みが伝える宿場の風格



城壁のような石積みがあり、本陣・脇本陣の風格を伝えています。石積みの高さに地形の高低差が感じられます。

より良い景観形成へ

草刈や崩れそうな箇所への補強などにより、歴史ある石積みを保全しましょう。

B-3 路地が伝える宿場の暮らし



旧東海道と交差する細く曲がった路地は、宿場の暮らしを伝えるとともに、旧東海道と鉄道沿いの道とをつなぐ道として、今も身近な生活路です。

より良い景観形成へ

幅や曲がり、高低差といった路地の形状と一体となって魅力ある路地空間となるよう、擁壁や塀、植栽などのしつらえに配慮しましょう。

中町エリアで景観のスパイスとなっているポイントを集めました。実際に探してみても、全体の景観にどのような効果や印象を与えているか考えてみましょう。

景観のスパイス

中町エリア



①町の境界



町の境界でもあるこの辺り、東町から中町に向かうにつれて登り坂となります。

②田口屋



名を瓦に入れるなど、デザインにこだわりがみられます。

⑦米屋



改修されていますが、卯建や格子などに町家のデザインがみられます。

⑧銭屋



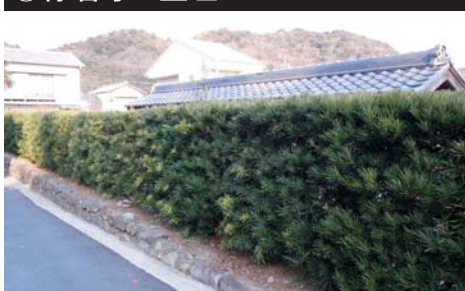
このエリアでは最も古い町家のデザインを知る手がかりとなる建物です。

③問屋場跡



別称「御伝馬所（おてんまじょ）」と呼ばれ、その存在を知らせる立札を生垣が引き立てています。

④称名寺の生垣



きれいに刈り込まれた生垣がまちなみに落ち着きを与えています。

⑨道路元標



道路の起終点に造られたもので、旧東海道が重要な道路であったことが分かります。

⑩藤川宿資料館（脇本陣跡）



立派な門は、脇本陣として大名など身分の高い人が利用した証です。

⑤薬師山からの眺望



牛乗山など北側の山並みと、家並みを見ることができます。

⑥薬師山



丸いお椀を伏せたような形良い山の姿を、国道1号側からも見ることができます。

⑪カラムシ自生地



脇本陣跡の裏には、かつて繊維をとったカラムシが自生しています。

⑫鉄道沿いの道の階段



家ごとに階段で下りた先は「家下（やした）」という地名です。